

## センター長あいさつ



東部農林事務所  
三神農業振興センター  
桑原 宏司

三神地区では水田農業を基幹に、園芸品目や畜産等が展開されていますが、今後、担い手農家の高齢化や減少が一層進むことが見込まれる中で、地域の農業・農村が発展していくためには、①米麦大豆では、将来に亘って持続可能な水田農業の仕組みづくりに向けて、集落営農組織の経営発展を進めていくことが重要だと考えます。

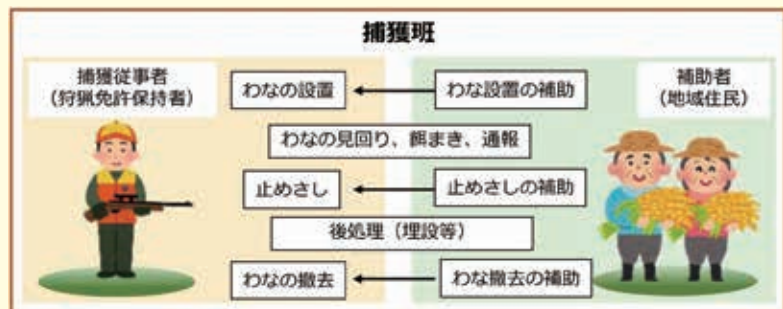
②「儲かる農業」への取組の強化では、現在「たが園芸888運動」を展開していますが、特に、新たな園芸農家の確保が喫緊の課題となっております。このため、イチゴなどでの「やってみようセミナー」開催や、「トレーナー制」や「トレーニンングファーム」の整備、「園芸団地」や「ハウスの第三者継承」の仕組みづくりなどを進める必要があると考えています。

こうした取組を皆さんと一緒に進めていきたいと思いますので、年間宜しくお願ひします。

## 捕獲班の取組で地域をイノシシ被害から守る！

イノシシの有害捕獲には、わなの設置、餌まき、見回り、止め刺し、わなの撤去など、重労働で手間のかかる作業が必要で、捕獲従事者（狩猟免許所持者）に大きな負担がかかっています。その対応策として、地域ぐるみの捕獲体制「へり」捕獲班」の取組が県内で広がっています。

捕獲班は、捕獲従事者と補助者（地域住民）とで構成され、補助者が作業補助や見回りに協力することで、捕獲従事者の負担が軽減されます。また、より多くのわなが設置できるため、効果的な捕獲につながります。取組の留意点などがありますので、振興センターまたは市町までご相談ください。



## 新規就農者等農業経営基礎講座 開講しています



こちらから申込できます

三神農業振興センターでは、新規就農者や若手農業者、就農準備中の方などに、農業技術や農業経営の基礎を学んでもらうため、農業経営基礎講座を開講しています。

今年度は、6月から開講しています（概ね第4火曜日 13時30分～15時）。年度途中からでも受講可能ですので、ぜひご参加ください。希望される方は、振興センターへお問い合わせください（TEL0952-521-1231）。

### 令和5年度カリキュラム

開催日	内容
6月27日(火)	農業経営の基礎知識 気を付けたい、種苗の取扱い(種苗法) 覚えておきたいイチゴの基礎知識①
7月25日(火)	役立つ！雑草防除の基礎知識 覚えておきたいイチゴの基礎知識②
8月22日(火)	土づくり・土壌肥料の基礎知識 絶対に覚えてほしい農業の安全使用
9月26日(火)	敵を知る 病害虫のはなし 営農と生活設計について なぜ必要？記帳について
11月7日(火)	いちごの増収に向けた環境制御
12月12日(火)	鳥獣害からほ場を守る傾向と対策 押さえておきたいアスパラガス栽培のポイント
12月19日(火)	我が身を守る農作業安全 知っておこう！農業関係の補助事業について 収入保険について

※開催日および内容は、変更になる場合があります。

## いちご『新規就農者を育てる会』の立ち上げ！

三神地区では、いちご新規就農者を対象に、安定的に収量を確保する技術習得を目的として、令和5年4月より、農業士、JA、振興センターが協力して『新規就農者を育てる会』を立ち上げ、研修等を行っています。座学研修では、JAや振興センターの職員が、月別の栽培管理について説明し、作業遅れをなくすために、進捗状況や今後のスケジュールの確認を行っています。また、現地では、それぞれのは場を巡回し、農業士や青年農業士が、栽培管理のポイントをアドバイスするなどしています。参加者からは、「作業が進んでいるほ場を見て、刺激になった。」「アドバイスをしっかりと実践していきたい。」などの意見が出されました。

今後も、新規就農者が、安定的に収量を確保できるよつに支援していきます。



## 加工用カンショの栽培が始まりました

近年、鹿児島県や宮崎県においてサツマイモ基腐病が蔓延し生産量が落ちていることから、北部九州における生産拡大への期待が高まっています。

そこで、R5年度は佐賀県内約6haで栽培が始まっております。三神地区は約3ha（鳥栖市、神崎市、みやき町）で、4月中旬から6月上旬に定植されました。水田における栽培や加工用カンショの生産体制が期待されています。



## 子実用トウモロコシ 先進地視察研修

令和5年3月に三神地区の大規模土地利用型農家で組織される米麦経営研究会で、先進地視察研修を開催しました。福岡県那珂川市の子実用トウモロコシ生産者を訪れ、栽培方法や専用機械について学びました。会員からは多くの質問が出され、先進的な技術へのチャレンジや情報収集の大切さを改めて実感されました。何より、研修先農家の「いかにして稼ぐか」という視点での言葉に、会員の皆さんは大きな刺激を受けていました。

